

ISSN0563-9654



Annual Report  
of  
Tottori Prefectural Public Health Laboratory

No. 25

— 1984 —

Tottori Prefectural Public Health Laboratory

## は じ め に

昭和59年度鳥取県衛生研究所報第25号をお届けしますが、ご高覧の上、ご批判ならびにご意見を賜われれば幸いと存じます。

環境に関する県民のニーズは、公害に対する適確な防止対策と、人の健康にとって快適な環境づくりにあると思います。幸いにも、本県は豊かな自然が多く残されており、大気も、都市河川および湖沼を除く公共用水域の水質も清浄であると県の環境白書（昭和59年版）は述べています。汚濁水域については今後とも総合的な立場からの浄化対策が進められていくでしょう。当研究所としては、大気汚染、水質汚濁等いわゆる典型7公害にかかわる調査をひき続いて実施するとともに、予見され得る問題に対しても積極的に取り組みたいと考えています。

また感染症も、自然、社会環境の変化に伴って大きく変貌してまいりました。たとえば我が国における結核、赤痢、急性灰白髄炎などは激減しましたが、本県もその例外ではありません。WHOは地球上の天然痘が撲滅されたことを宣言しています。その一方で新しい感染症が報告されるようになりました。たとえばウイルス肝炎や成人T細胞白血病があります。周知のように世界の恐怖となりつつあるAIDSも新しいウイルス感染のひとつです。このように変容する感染症に対しては、将来とも、その動向を見守りつつ弾力的に対処していかなければならないと考えています。

当研究所は、いわゆる衛生、公害併合型の試験研究機関であり、衛生、環境行政の科学的・技術的な中核としての業務を進めています。その使命は重く、かつ大きいことを認識して、所員一同は一層の研さんに努める所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

昭和61年3月

所 長 深 澤 義 明